

10月11日 ｜ 7年ぶりからくり屋台復活

家山八幡宮で秋の祭典が開催され、屋台の巡航やステージ展など、多くの人でにぎわいました。

コロナ禍の影響により中断していた西向地区のからくり屋台が、今年は7年ぶりに復活。熟練者と若手で新たにお囃子チームを結成し、野守太夫の悲恋と怨念の民話を再現した屋台を彩りました。当家組副委員長の鈴木明さんは「多世代が一緒にお囃子を奏でることができて喜びもひとしお」と話しました。

10月4日 ｜ 子どもたちがつなぐ伝統

江戸時代から伝わる「おせん女踊り」が阪本の旧初地区で行われました。

年中児から中学2年生までの16人が花笠と振り袖を身につけ、地区内を回りながら踊りを披露しました。小学生の時から参加している中学生は「踊りはもう完璧。普段の生活で幼稚園児や高齢の方と関わる機会がないので、これが交流のきっかけになって楽しい」と話しました。



10月18日 ｜ 華やか着物をお披露目



おび通り南側で「バリアフリーてけてけ隊秋の感謝祭」が開催され、障害のあるモデルたちが着物を身につけ、笑顔でランウェイを進みました。

着用したユニバーサル着物は着脱しやすいよう、上下をセパレートにしたり、帯留めを帯に縫い付けたりするなどの工夫が施されました。主催者は「人とのつながりで実現した企画。心のバリアフリーをもっと広めていきたい」と話しました。



10月4日 ｜ ホームラン級のにぎわい

「水曜どうでしょうキャラバン」が8年ぶりに市内で開催されました。

野球以外で使われることがまれな島田球場を会場とし、県内外から約5,000人が来場。人気ディレクターによるトークショーや音楽ライブ、ニュースポーツ体験などで盛り上がりました。緑茶の飲み比べを体験した県外参加者は「お茶の甘みを感じた。産地により少しずつ味が異なることに驚いた」と話しました。

10月10日 ｜ 誰でも楽しめるスポーツ

ローズアリーナで「しまだインクルーシブスポーツパーク」が開催されました。

これは、性別・年齢などにかかわらず誰でも一緒に楽しむことを目的としたイベントで、110人が参加しました。モルック、スカットボールなどを新たに加え、バスケットボールチーム「ベルテックス静岡」も協力。参加した親子は「障害者と一緒に遊ぶことがほとんどないので、視野が広がる良い機会になった」と話しました。



広報ひみから
From Koho Himi city, Toyama prefecture

姉妹都市の「富山県氷見市」から寄せられたイベント情報など、季節の便りをご紹介します。
ホームページはこちらから➡

氷見市の飲食店、宿泊施設などでさまざまなブリ料理を味わえる「ひみぶりフェア」を開催します。各店自慢のブリ料理をぜひお楽しみください！フェア期間中、参加店でブリ料理を注文した人に抽選で、参加店で使える共通食事券をプレゼント！参加店で配布するはがきで応募できます。
※詳しくは、QRから氷見市観光ポータルサイトをご覧ください。
期間／12月1日㈫～2月28日㈰
㊐ひみぶりフェア実行委員会(氷見市観光協会内)
0766-74-5250


氷見のブリ料理（イメージ）